

民俗文化財公開交流事業～「椒沢番楽教室」開催

はじかみざわばんがく 椒沢番楽について

椒沢番楽は、大沢郷に古くから伝わる番楽で、平成元年に大仙市の無形民俗文化財に指定されました。無病息災や厄除けを祈願する山伏神楽がルーツとなっており、藩政時代から家内安全・五穀豊穡を願って行われてきた行事です。毎年8月14日の権現堂の祭りでは、獅子頭が家々を廻って「獅子まわり」が行われ8月16日には番楽を上演します。

当日（11月1日）は、PTA祖父母参観日とあわせて民俗文化財公開交流事業（県生涯学習課）を開催し、「秋田の宝」である「椒沢番楽」を保存会の方々から披露していただきました。



ステージ上の神前（テーブル）に手を合わせて、舞がスタート。
はじめは扇を持ち、次に刀剣を持つての舞へと続きます。



獅子は天に向かって勢いよく舞います。獅子頭は重さ4kgもあり、軽快な動きには熟練の技が光ります。最後に、保存会会長の鎌田さんが、番楽にまつわるお面を紹介してくださいました。